宝泉茶臼山古墳（太田市）

ここは円福寺/背後が宝泉茶臼山古墳/境内の「円福寺茶臼山古墳及び伝新田氏累代の墓附石幢」が国指定史跡の「新田庄遺跡」となっている/この辺りは当時「新田庄由良郷」と呼ばれており、13世紀中頃～14世紀前半頃の新田氏本宗家の拠点になっていた

山門の扁額は江戸時代の旗本、筒井政憲の書になるもの

いくつもの標柱や説明板が立っている/左手は「東上州三十三観音霊場 千手観音」と記された標柱

新田荘遺跡

国指定史跡

新田荘遺跡 円福寺境内・十二所神社境内

●所在地　太田市別所町六〇〇―一ほか
●指定年月日　平成十二年（二〇〇〇）十一月一日

新田荘遺跡

平安時代末期の十二世紀中頃、源義国の子新田義重（新田氏初代）は、現在の新田郡のほぼ全域と太田市の南西部を開発して荘園とし、ここに「新田荘」が成立しました。新田荘は、日本の中世史を代表する荘園の一つで、ここを中心に新田氏一族が活躍を繰り広げました。

史跡「新田荘遺跡」は、この新田荘に深いかかわりのある十一の遺跡から成っており、これらは太田市と新田郡尾島町・新田町の一市二町に広域的に存在しています。

円福寺境内・十二所神社境内は、この新田荘遺跡を構成する十一遺跡のうちの二遺跡です。ここは、昭和四十六年十二月二十二日付で、「円福寺茶臼山古墳及び伝新田氏累代の墓附石幢」として群馬県史跡に指定されていましたが、「新田荘遺跡」として国から史跡指定を受けたことに伴い、県の指定は解除されました。国史跡としての指定範囲は、下図のとおりです。

史跡指定範囲（円福寺境内・十二所神社境内）及び周辺図

■円福寺境内

円福寺は、古義真言宗の寺で、正式名を御室山金剛院円福寺といいます。

新田氏第四代の新田政義が開基した寺と伝えられ、政義が京都御室の仁和寺から招いた阿闍梨静憲が初代住職といわれます。

『吾妻鏡』によれば、新田政義は、寛元二年（一二四四）京都大番役として在京中、幕府の許可を得ず突然出家したため幕府の咎めを受けて所領を没収され、由良郷別所の地に蟄居することとなりました。円福寺が開かれたのはその頃と考えられます。

この辺りは、当時「新田荘由良郷」と呼ばれており、十三世紀中頃～十四世紀前半頃の新田氏本宗家の拠点になっていたと考えられ、近年改築された本堂には、新田氏の第四～七代にあたる新田政義、政氏、基氏、朝氏の位牌が安置されています。

境内には、大型の前方後円墳茶臼山古墳が存在し、その前方部東裾には新田氏累代の墓と伝えられる二十基余りの凝灰岩製の石層塔・五輪塔群があり、そのうちの一基には元亨四年（一三二四）に「沙弥道義」（新田義貞の祖父新田基氏の法名といわれる）が七十二歳で逝去したことが記されています。

■十二所神社境内

十二所神社は、円福寺本堂の西、茶臼山古墳の後円部墳頂近くにあります。創建された時代は不明ですが、中に全部で十六体の神像が安置されています。

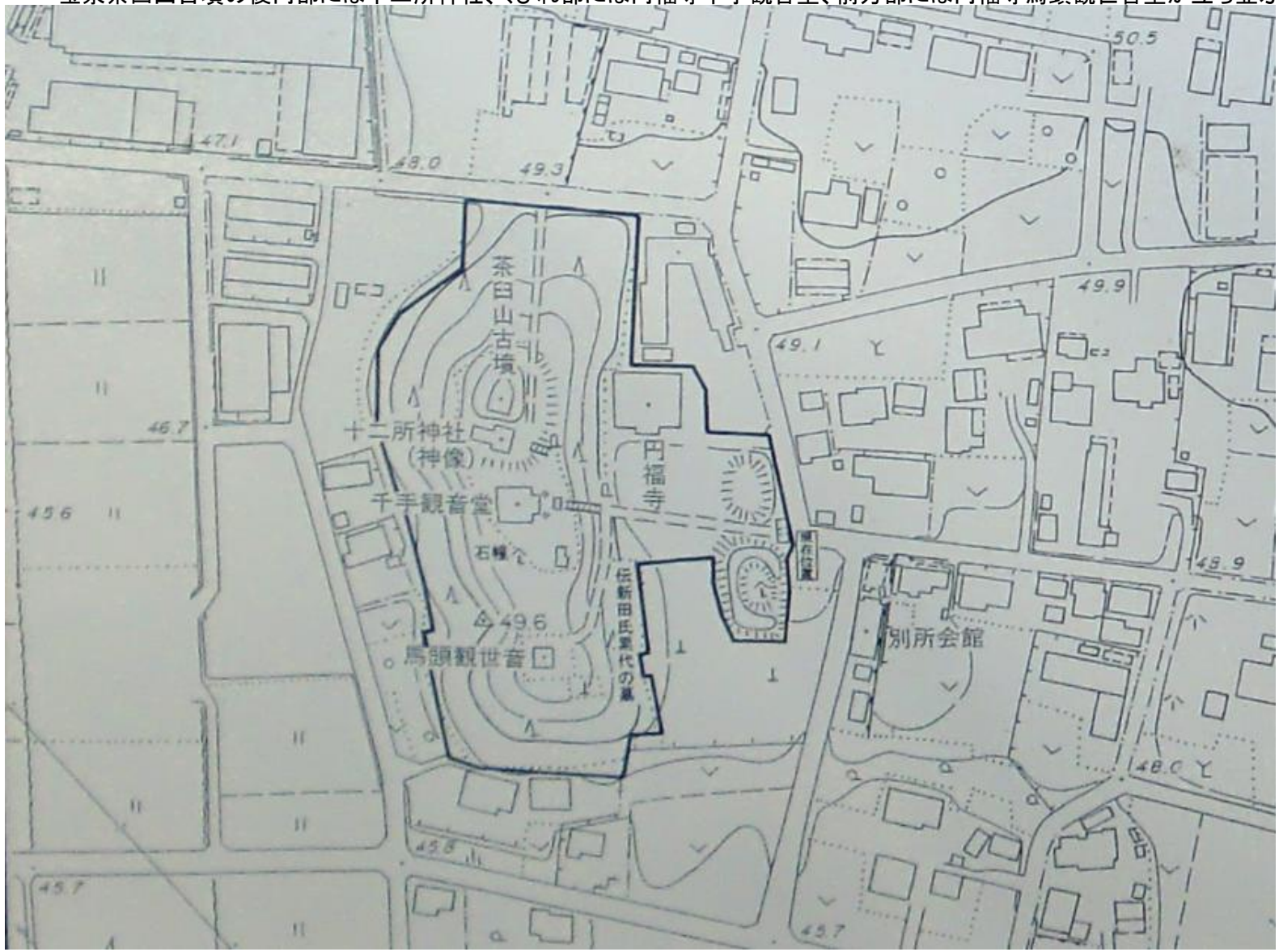
そのうち五体（市重要文化財）には正元元年（一二五九）の銘があり、その一体には、前述の円福寺初代住職阿闍梨静憲が、現世安穏と極楽往生を祈願して、同年十月五日に造像したことが刻まれています。

平安時代は神仏習合が進み、中世に入ると日本の神々を仏教の如来や菩薩の権現とする考えが一般化し、神殿内に仏を安置し、寺院境内に神々を祀ることが普及しており、ここにもその一端を伺うことができます。

平成十四年（二〇〇二）三月二十九日

太田市教育委員会

宝泉茶臼山古墳の後円部には十二所神社、くびれ部には円福寺千手観音堂、前方部には円福寺馬頭観世音堂が立ち並ぶ



円福寺周辺案内図
茶臼山古墳
十二所神社
千手観音堂
馬頭観世音
新田氏累代の墓
本堂
宝泉北幼稚園
門
駐車場
現在地
トイレ
別所会館
太田市観光協会

正面は墳丘くびれ部辺りに建つ円福寺千手観音堂で右手が後円部、左手は前方部

右手の後円部を見たところ/墳丘裾に円福寺本堂が建つ

これが円福寺本堂

左手の前方部を見たところ/墳丘裾に新田氏累代の墓の覆屋が見える

更に左手を見ると周堀の名残りのような池があった

ここにもさまざまな標柱と説明板が立っている/正面は墳丘くびれ部辺りに建つ円福寺千手観音堂

国指定史跡
新田荘遺跡案内図
太田市教育委員会

この周辺には台源氏館跡や由良城跡が推定されているという

円福寺・十二所神社とその周辺の文化財

円福寺一山絵図

円福寺所蔵の絵図で、安政四年（一八五七）に木崎宿の画家角田岱岳が「往古之図」を模写したものです。円福寺東側に釈迦坊・大日坊・光明坊など十二の塔頭（小院）を配し、中世において繁栄していた様子を示していると考えられます。また、「出丸要害之地」や「新田由良入道居館要害地」など、かつての城館跡などを推定させる記述も見られます。

円福寺一山絵図

円福寺茶臼山古墳

円福寺茶臼山古墳（別所茶臼山古墳または宝泉茶臼山古墳とも呼ばれる）は、宝泉（由良）台地の西端に築造された大型の前方後円墳で、市内では天神山古墳に次いで第二位、県内でも第三位の規模を誇っています。墳丘の全長約一六八m、後円部は直径九六m、高さ一四m、前方部は前端幅四二m（現存部）、高さ九mで、墳丘は二段に盛り土をして築造され、川原石による葺石が認められます。中程の平坦面には円筒埴輪が巡らされています。周堀はほとんどが埋まっていますが、後円部北側にそのなごりが残っています。築造時期は五世紀前半頃と考えられます。墳丘上には、神像（五体が市指定重要文化財）のある十二所神社や石幢（茶臼山古墳とともに旧県指定史跡、現在は新田荘遺跡に包含）などが存在し、前方部東側には伝新田氏累代の墓（同）があります。

円福寺茶臼山古墳実測図

由良郷

円福寺・十二所神社は、現在太田市別所町に所在しますが、この一帯は、中世において由良郷と呼ばれており、由良（現太田市由良町）を中心に、別所（別所町）・脇谷（脇屋町）・奥（沖野町）・細谷（細谷町）の各村々を付属させた大きな郷で、鎌倉時代には新田氏本宗家の所領でした。その後、金山城を主な舞台として活躍した岩松氏・横瀬（由良）氏もこの地を重視しました。この周辺には、台源氏館跡や由良城跡などの存在が推定されています。

台源氏館跡

円福寺東方約四百mの地に、「台源氏館址　新田義貞御誕生地之碑」の石碑（昭和十三年、新田義貞没後六百年を記念して建立されたもの）があります。ここは、新田政義が築き、新田義貞・脇屋義助生誕地と伝えられる館跡の推定地で、円福寺一山絵図で「出丸要害之地」と描かれている部分に相当すると考えられます。また、円福寺北東に隣接する方二町（約二百m四方）の区画と推定する説もあります。

由良城跡

円福寺南東約五百mにある戦国時代の由良氏の城跡ですが、鎌倉～南北朝期の館跡を踏襲しているという説もあります。昭和二十年代までは土塁・堀が残っていました。円福寺一山絵図で「新田由良入道（＝新田政義）居館要害地」と描かれている部分に相当すると考えられます。

平成十四年（二〇〇二）三月二十九日

太田市教育委員会

墳丘裾に円福寺本堂が立つほか、墳丘上の後円部には十二所神社、くびれ部辺りには円福寺千手観音堂、前方部には円福寺馬頭観世音堂が立ち並び、それらの建立のため墳丘の多くが削られている/別所茶臼山古墳、円福寺茶臼山古墳とも呼ばれる

さて、ここが新田氏累代の墓の覆屋

伝新田氏累代の墓

●所　在　地　太田市大字別所字山越604　円福寺

御室山金剛院円福寺は古義真言宗の寺で、新田本宗家4代の新田政義が開基したと伝えられる。開山は政義により京都御室の仁和寺から招かれた阿闍梨静菴とされる。

政義は寛元2年(1244)大番役(朝廷警固)のため在京中、所労と称し、六波羅探題や、上司である上野国守護安達泰盛の許可を得ず仁和寺に入り出家した。このため幕府よりとがめを受け、所領の一部を没収され失脚し帰国、由良郷別所に蟄居した。円福寺はこの時に開基されたものと考えられている。

由良郷は別所・細谷・脇屋・奥(沖野)の4ヶ村を付属させた大きな郷で、新田氏本宗家の所領であった。新田本宗家の館跡が円福寺の北東隣接地(大字別所字大門)や東方(大字由良字北之庄)に想定されている。なお、この地域には室町・戦国期に岩松氏・横瀬(由良)氏の城館が築かれている。

伝新田氏累代の墓は茶臼山古墳前方部東側にあり、多層塔・五輪塔・板碑の台石20基ほどがある。石材は新田郡笠懸町西鹿田の天神山産出の凝灰岩と同定されている。この中の一基の五輪塔地輪部に、新田義貞の祖父新田基氏の法名とされる「沙弥道義」の銘文がある。

昭和54年度に墓地の保存整備事業を実施した際、発掘調査が行われ、埋葬施設が確認された。出土した骨蔵器には、中国産の白磁四耳壺、常滑焼・渥美焼の壺、地場産の軟質陶器が用いられている。中国製磁器が出土することはめずらしく、新田氏の財力の大きさを物語るものであろう。他の出土遺物に、かわらけ、板碑(建武5年銘ほか)、渡来銭(北宋銭が中心)、仏具、阿弥陀教の一部を写経した経石などがあり、中世仏教信仰を知るうえでも興味深い。

墓が営まれた年代は骨蔵器・板碑・五輪塔群の様式から推定すると、鎌倉時代中期～南北朝時代(13世紀中頃～14世紀中頃)と考えられる。

平成3年(1991)2月28日

太田市教育委員会

新田氏略系図

「沙弥道義」の銘がある五輪塔地輪部の拓影図

沙弥道義七十二歳去

元亨四年甲子六月十一日巳時

(1324年)

「新田氏代々の墓」と刻まれている

ここが多層石塔や五輪塔などが数多く並ぶ新田氏累代の墓

多層石塔

反対側から見たところ

他にもさまざまな石造物があった

さて、墳丘くびれ部辺りに建つ円福寺千手観音堂へ進んでみよう

観世音菩薩

これが円福寺千手観音堂

その左手を見たところ

「馬頭観世音」と刻まれた石碑

これが「円福寺茶臼山古墳及び伝新田氏累代の墓附石幢」の石幢/1489年の造立

重制石幢といわれる形式/安山岩製/龕部は七角形で七地蔵像が刻まれている

別所円福寺・石幢（せきどう）

所在地　太田市大字別所字山越

石幢は先祖供養のための一種の石造物で、中国では隋・唐の時代から造立され、我が国へ伝えられたのは平安・鎌倉時代とされている。本来の『尊勝陀羅尼経』の信仰とは異り、我が国では、仏龕を主とした石燈籠に似た形のものや、幢身に直接笠をのせたものが主になった。又、中国の石幢はほとんどが八角柱であるが、我が国では六角柱が多く、六地蔵信仰とむすびついて流行をみた。

この石幢は、円福寺茶臼山古墳前方部墳頂上に造立されている、形式は重制石幢と言われるもので、総高一四二センチメートルで安山岩で作くられている。宝珠・請花・笠・中台は造立後欠損部をおぎなったものであろうと推定されている。龕部は七角形で七地蔵像が刻まれ、幢身には長享三年酉己十月廿四日（一四八九室町時代）年のある銘文がある。

銘文によると、道見が本願主となって性仲上座を始め八名のために造立したことがわかる。又、造立日を二十四日としたのは、地蔵の結縁日に因んだものであろうと考えられている。

性仲上座　法界衆生
千代松女　平等利益
宗悦上座
長享三年己酉十月廿四日
性王禅尼　本願道見上座
宮一
妙王禅尼
徳松
宝泉禅門

幢身部銘文

石幢図

昭和五十五年三月

群馬県教育委員会
太田市教育委員会

そこから円福寺千手観音堂を見たところ

さて、これはくびれ部辺りから前方部（南方向）を見たところ/向こうに馬頭観世音の御堂が見える

これが前方部上にある馬頭観世音の御堂

その左手を見たところ

これはその後方の前方部を見たところ

左手（東側）には土塁状の高まりがあり、ここがかって城館跡として使われていたのではないかと思わせる雰囲気がある

さて、これは前方部からくびれ部及び後円部（北方向）を見たところ/手前の辺りはかなり削平されている

円福寺千手観音堂の右手が後円部/後円部上にある十二所神社の社殿屋根が見える

前方がその十二所神社社殿/右手前に説明板が立っている

太田市指定
重要文化財

十二所神社神像（五体）

じゅうにしょじんじゃしんぞう

●所　在　地　太田市大字別所字山越五九九　十二所神社
●指定年月日　昭和五十年（一九七五）九月二二日

十二所神社本殿に十六体の神像が安置されている。神像は神仏習合の影響により崇拝の対象として作られたものである。

神像はともに三十cm弱ほどの木彫一木造りで、胡粉を塗った後に彩色が施されている。十六体のうち五体に正元元年（一二五九）の銘があり、市重要文化財に指定されている。

うち一体は背面上部に「阿波天神」、背面下部の左右に「右志者為阿闍梨静毫」「現世安穏後世善処往生極楽也」、中央に「正元々年己未十月五日」の刻銘があり、日付の下に花押が刻まれる。銘文に見られる「阿闍梨静毫」は新田政義により仁和寺から招かれた円福寺初代住職であるとされる。この神像は静毫自身により生前の安穏と来世の安楽を祈って造像、奉安されたものと考えられる。

平成三年（一九九一）二月二八日

太田市教育委員会

右手を見ると土留め壁が見える/この山が本来の後円部の墳頂で、社殿のために一部が削平されていることが見てとれる

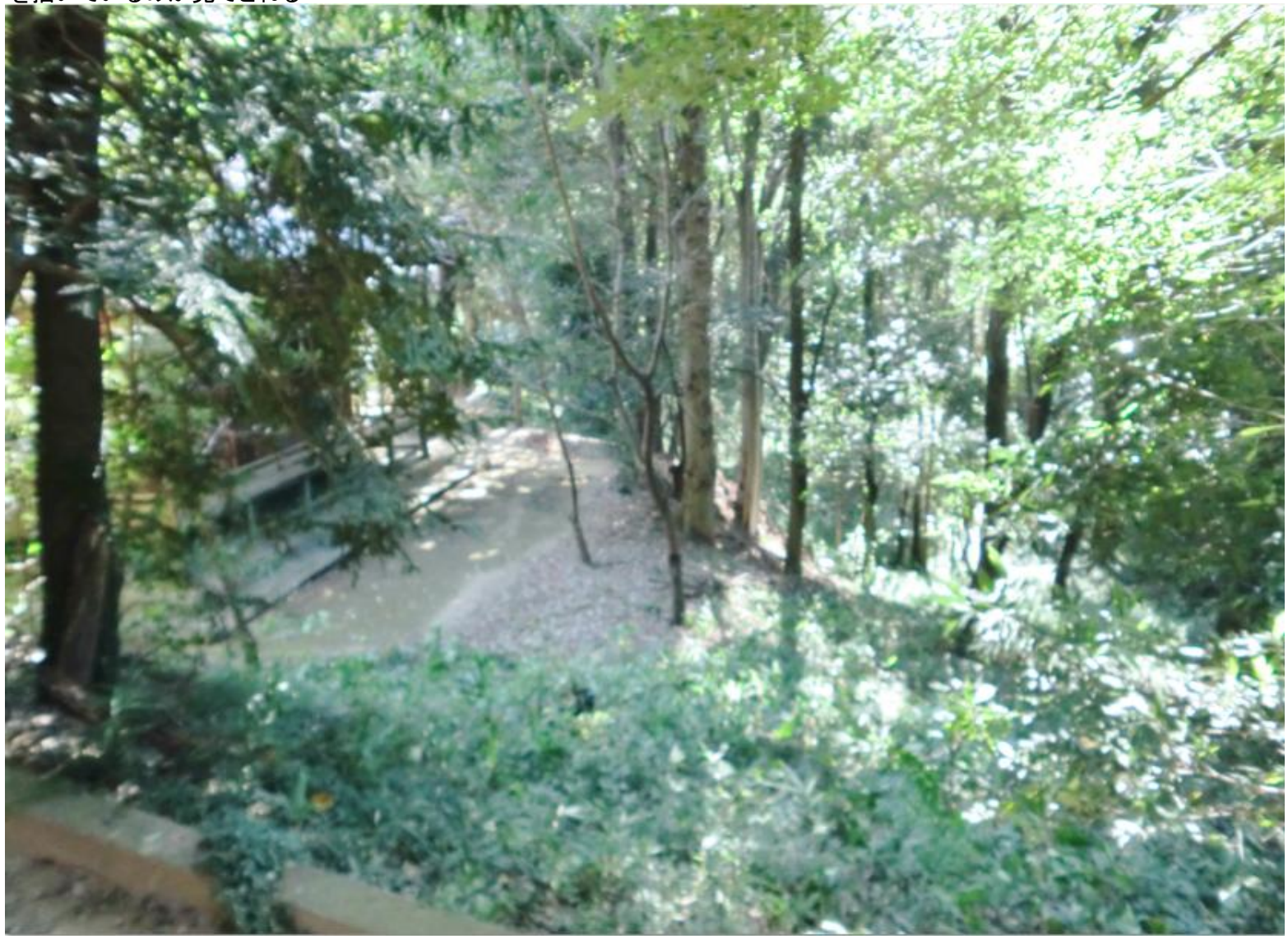
こんな感じ

その墳頂の手前に「国良親王御陵」と刻まれた標柱が立っていた

ここがその墳頂

十二所神社の社殿屋根を見下ろす

これは十二所神社社殿裏手から円福寺千手観音堂裏手を見たところ/右手が墳丘西側の斜面で手前の後円部からくびれ部へと曲線を描いているのが見てとれる



これはそのくびれ部から前方部方向へ墳丘西側の斜面を見たところ

さて、これは西側から墳丘全体を見たところ

左手の後円部をアップで見たところ

右手の前方部をアップで見たところ

これは南西側から墳丘全体を見たところ/右手前が前方部、左奥が後円部/5世紀前半頃の築造で前方部は二段、後円部は三段築成であるようだ

これは南東側から墳丘全体を見たところ/左手前が前方部、右奥が後円部

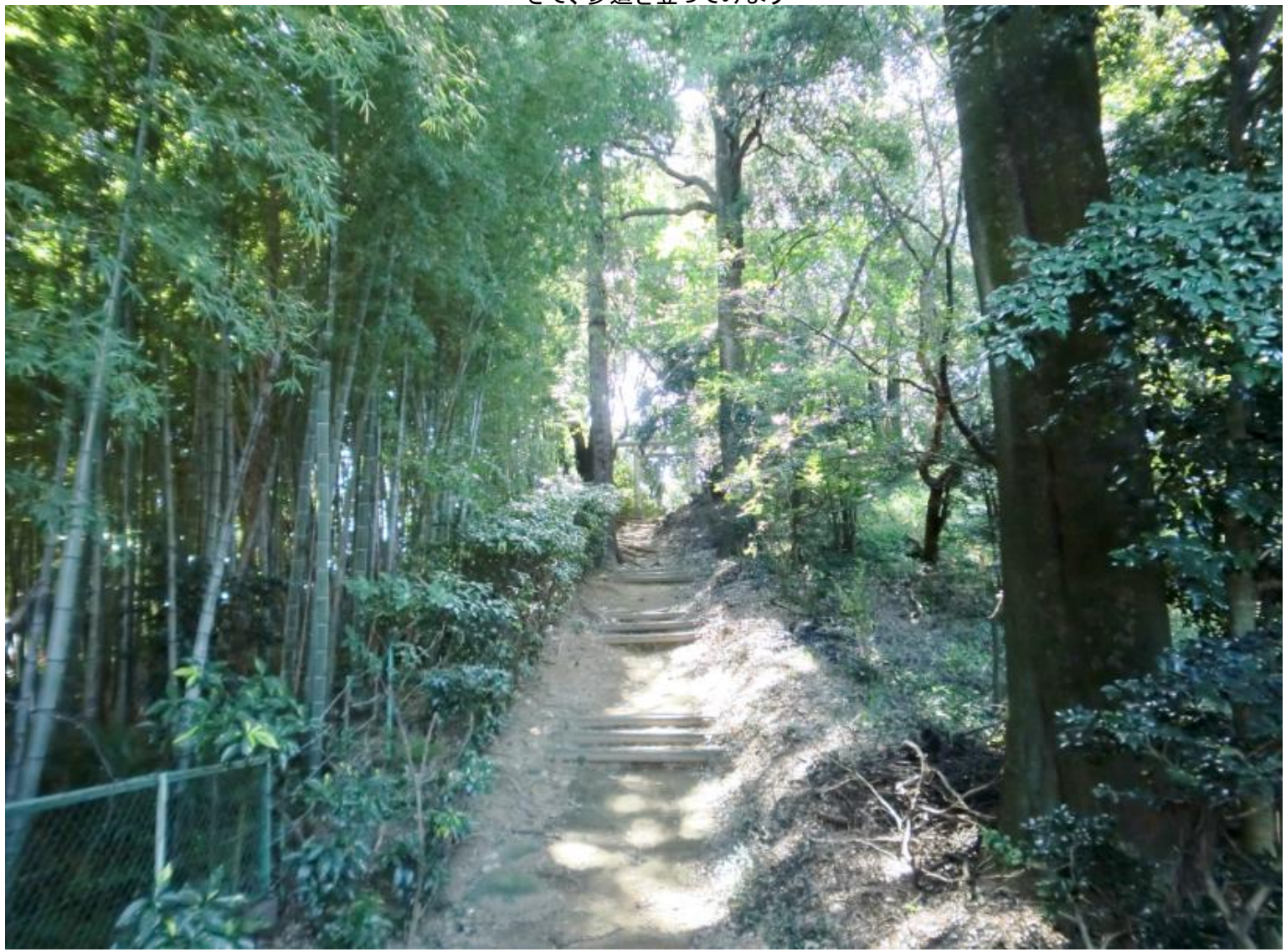
さて、これは後円部北側を西側から東方向に見たところ

ここはその北側にある十二所神社社殿への参道入口

そこで右手を見たところ/この部分が、説明板に後円部北側にその名残があると記されている周堀跡のようだ/左手が後円部裾

左手を見たところ/右手が後円部裾

さて、参道を登ってみよう



左手の墳丘斜面を見たところ

右手の墳丘斜面を見たところ

鳥居がある

その右手を見ると、ここが後円部で削平されていなかった墳頂部分である

参考ホームページ

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/ota_tyausu/

http://www.city.ota.gunma.jp/005gyosei/0170-009kyoiku-bunka/bunmazai/otabunka45.html

http://www.gunmaibun.org/remain/guide/tomo/tyausu.html

http://www.bell.jp/pancho/travel/saitama/term/chausuyama%20kofun.htm

http://www.geocities.jp/jw_mura/kofunn/kofun20.htm

https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%88%A5%E6%89%80%E8%8C%B6%E8%87%BC%E5%B1%B1%E5%8F%A4%E5%A2%B3

http://members3.jcom.home.ne.jp/yoshi-cp/gohtnishi.htm

http://kofunnomori.web.fc2.com/gunma/ota/chausu.htm

http://homepage3.nifty.com/jh1eda/100102CHAUSUYAMAKOHUN.html

http://mukidouan.exblog.jp/13841833/

http://blog.goo.ne.jp/ymmtyz/e/aed3d5716cc669dbbbf700d4d03b8cc9

天気情報
週間天気
城西町
蛇川
新田瑞木町
鳥山下町
八瀬川
三枚
鳥之郷行政センター
太田署
駒屋町
太田産業技術専門校
新野町
城西中
大光院
新田村田町
新田東部工業団地
東武桐生線
大島町
コメリ
別所
新田庁舎
シェル
イチタン
反町館跡
東毛変電所
新道町
八幡町
新田反町町
円福寺
太田合同庁舎
太田女子高
太田
西本町
王子製鉄
藤阿久
太田高
新田中部工業団地
沖野町
宝泉団地
威光寺
藤久良町
藤阿久町
コクヨ
しげる工業
宝泉小
宝町
宝泉中
宝町
下浜田
細谷駅
関東学園大
太田高等
1km
西野谷町
地図拡大
P CORP.